

澤井信一郎監督作品

恋人たちの時刻

製作●角川春樹／原作●寺久保友哉(角川文庫版)

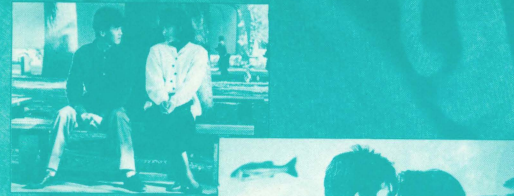
プロデューサー・黒澤 源・伊藤忠興・小倉弘弘/脚本・荒井晴彦/撮影・仙元誠三/美術・坂名忠之/照明・海辺三雄/録音・橋本文雄/編集・西条清明/監督・藤沢順夫 鹿島 製作主任・大塚泰之・キャスティング・飯塚 昌彦/スチル 沼 昌彦/プロデューサー・石川 光・角川春樹事務所/製作協力・セントラル・アーツ/配給・東宝

黒いドレスの女

プロデューサー・黒澤 孝・奥本睦彦/脚本・田中隆浩/撮影・浜田 聡/美術・金村 力/角川春樹事務所作品/配給・東

198291-20

恋人たちの時刻



何で...誰とでも...好きでもない男たちと...

北海道の街と海辺を舞台に、若者たちは愛に荒んでゆく。「恋人たちの時刻」は、予備校生・冨治と彫刻モデル・マリ子との恋する裸の心模様を精妙に描いた新しい青春映画である。

冨治がマリ子と出会ったのはさびれた海岸だった。男に襲われそうになったマリ子を助けたのがきっかけ。数日後、偶然、札幌の歯科医で二人は再会した。マリ子の清純さに冨治は魅かれる。何故か彼女は冨治の誘いを頑なに拒んでいたが、やがて、つき合う条件として、「典子という友人を捜していたが、い」と頼む。冨治が幻の女・典子を追ってゆくうちに遭遇したのは、マリ子の過去だった。乱れた異性関係の過去。冨治は苦悩しながらも、マリ子の不思議な純粋さとやさしさにますます魅かれてゆく...

愛さえあれば過去は許せる、そんな格好いい現代の恋愛スタイルの裏に秘められた「愛する女が他の男に抱かれていたなんて」という悲痛な本音。その本音を露わに引きずり出すまで男を狂わす「可愛い女」とは?

原作は、北海道で精力的な創作活動を続け、数度の芥川賞候補に登った寺久保友哉の同名小説。

監督は、「Wの悲劇」「早春物語」「めぞん一刻」など各方面から、その演出力を絶賛された澤井信一郎。惚れ込んだ原作の念願の映画化だけに、磨き抜かれた技がさらに冨えわたる。また、脚本に荒井晴彦、撮影に仙元誠三、録音に橋本文雄と澤井組スタッフが結束し、高いクオリティへの飽くなき追求がなされる。

冨治役には「メインテーマ」でデビューし、「ギャバレー」の体当たり演技で著しい成長ぶりを見せた野村宏伸が再び主演に挑む。マリ子役はデビュー作「シンベンライダー」の主演に抜擢され、以後、現代っ娘をリアルに好演し続けた注目の若手・河合美智子。従来の少女イメージを脱皮し、女の核心に肉迫する。

共演陣として、真野あずさ・大谷直子・加賀まりこ・高橋悦史ら実力派がガッチリ脇を固めている。

男の本音、女の恐ろしいまでの可愛らしさを描出した本作品は、共感とともに、胸をしめつけるようなメモリーを永遠に刻むことであろう。

（キャスト）
 冨治 野村宏伸
 マリ子 河合美智子
 佐々木 真野あずさ
 山崎 大谷直子
 典子 石田純一
 典子の義母 宮下順子
 西江 加賀まりこ
 桑山 高橋悦史

（スタッフ）
 製作 角川春樹プロデューサー 黒澤満
 脚本 荒井晴彦 伊藤亮輔
 監督 澤井信一郎 小島吉弘
 原作 寺久保友哉（角川文庫）
 監修 澤井信一郎
 撮影 仙元誠三
 美術 桑名忠之
 照明 渡辺三雄
 録音 橋本文雄
 編集 西東清明
 助監督 藤沢勇夫
 製作主任 大塚泰之
 キャスティング 飯塚滋
 音楽 久石譲
 音楽プロデューサー 石川光
 主題歌 大友良英の「リフレクト」
 歌唱 大友良英
 脚 田中陽造
 編集 大友良英
 制作協力 セントラル・アーツ
 配給 東宝

前売券絶賛発売中!
 一般1200円(当日1500円の処)
 学生1100円(当日大学・高校1300円、中学1200円の処)

伊勢丹前・シネタウン
新宿ビレッジ2 (351)
 3129

アルコールとオンナがよく似合う男のダンスの世界。若者達に圧倒的に人気がある北方謙三が描くハードボイルドの世界に、新しく男を酔わせるあやしげな女が登場する。黒いドレスの女、同名小説（角川文庫版）の興奮映画化。

黒いドレスをまとい、無意識のうちに男たちの心を惑わせる女。命を賭けてまで女のために人生を駆けぬけてしまう男達。この最も危険な女を演じるのが原田知世。「時をかける少女」でデビュー以来、着実に女優としての道を歩んでいる彼女が、「早春物語」から一年半ぶりの映画主演。

監督は、「十階のモスキート」、「いつか誰かが殺される」、「友よ、静かに眠れ」などハードボイルドの演出では、独特の映像をつくり出す鋭才・崔洋一。共演には永島敏行・藤真利子・時任三郎・菅原文太など、今一番充実した芝居を見せてくれるキャストが脇を固める。

やがて主題歌はN.A.M (NEW AGE MUSIC)と呼ばれる音楽業界で非常に注目されているものが使われており、同名主題歌を元アソンのトップモデル・甲田益也子と木村達司の「dip in the pool」が歌っている。

解説



物語

夜明け前の高速道路——怪しく危険な香りを漂わせながら、裸足で歩く女がいた。その香りに引きつけられるように、一台のダイク・グレイのBMWが止まった。車にはヤクザっぽい男が乗っていた。男が声をかけると女は大井競馬場に行くという。偶然、男も大井に人を捜しに行く途中だった。この不思議な出会いが、これからの男と女、男と男の壮絶なドラマの幕開きだった。

競馬場では、田村と弁護士・山本が庄司というヤクザを外国に逃がす相談をしていた。その目の前で、庄司は若い男に腹を刺されてしまう。刺したのはBMWに乗っていた男……アキラだった。その情景を遠巻きから棒立ちになって見ていた女……朝吹列子。

突然、列子は田村のバーに現れた。黒いドレスに流れるような髪。列子は静岡にいる義理の妹・葉子の知り合いで、この店で働きたいという。

数日後、腹の傷が癒えた庄司もバーに転が

り込んできた。親子ほど年の違う男と女の奇妙な生活が始まった。田村はそんな二人に追われるものの切迫感と暗い影を感じるのだった。

庄司の逃方ルートが決まった日の夜、バーに数人の男たちが入ってきて、列子を出せと田村に迫った。庄司の凄味ある声に気圧された男は、一瞬にして腹を刺されてしまった。その場は事なきを得た列子だが自らの危険を肌と感じバーの二階から姿を消してしまった。

再び、アキラと出合ったのは六本木のデイスコだった。一心不乱に踊っていた列子の前に現れたのだ。列子はアキラから庄司をどうしても殺らなさいいけな理由を聞く、さらには逃方ルートも罫であることを知った。間一髪田村にその事を知らせた列子は、再び大都会の中へ……

葉子の家を訪れた田村は、彼女から列子が七年前女房・圭子を殺したと思われる代議士・野木原に追われていることを聞かされた。そして、逃亡ルートが鎖された正司は、暫く葉子の家に匿まれることになった。葉子は庄司に列子の父親・英一郎が謎の死をとげたこと、野木原に入る金の流れを究明にメモしていたことを告げた。すべての事件が、最も危険な女、列子を中心に動きだした。



■キャスト
 朝吹列子 原田知世
 田村 永島敏行
 三井 藤真利子
 立岡 室田日出男
 アキラ 藤タカシ
 山本 時任三郎
 庄司 菅原文太

■スタッフ
 製作 角川春樹
 原作 北方謙三
 脚本 田中陽造
 監督 崔洋一
 プロデューサー 黒澤満
 撮影 青木勝彦
 美術 浜田毅
 照明 今村力
 録音 長田達也
 編集 中野俊夫
 音楽 富田功
 音楽プロデューサー 佐久間正英
 石川光

主題歌・「黒いドレスの女」 Ethical
 作詞 甲田益也子
 作曲 作久間正英
 唄 dip in the pool
 (角川・セントラル・アーツ)
 製作協力 セントラル・アーツ
 配給 東宝

黒いドレスの女

3月14日(土)ロードショー公開

